

第3次いづか健幸都市基本計画

～すべての人が健康で いきいきと

笑顔で暮らせるまち～



2024(令和 6)年 3 月

はじめに



「健やかに安心して暮らし続けること」は、誰もがもつ共通の願いではないでしょうか。

飯塚市では、市民の皆様が生きがいを持ち、健やかに、心豊かに笑顔で暮らしていただくためには健康を意識することが大切であると考えています。また、市民一人ひとりが健やかに「生き活き」と暮らすことは、人と人とのつながりや交流を育み、地域コミュニティの活性化を促します。外出機会が増え、公共交通を利用し商店街や商業施設で買い物をすることで地域経済の活性化、そして市全体の活性化にもつながります。

このようなことから、本市では 2011 年の Smart Wellness City 首長研究会への加入を契機とし、身体面の健康だけではなく、「健幸（市民の皆様が生きがいを感じ、安心して豊かな暮らしを送れること）」をまちづくりの重要なコンセプトとして、「すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせるまち」を本市が目指す健幸都市の将来像に掲げ、市民の皆様の「健康寿命の延伸」を目標とした「いづか健幸都市基本計画」を策定(2014)しました。

主な取り組みとしては、運動や各種検診（健診）の受診を促進するための健幸ポイント事業の実施、楽しみながら歩けるウォーキングコースの整備、気軽にスポーツや健幸イベントに参加できるよう、各地区交流センターやスポーツ施設の整備を進めてきました。また、大型商業施設、ヘルスケア産業とも連携を強化し、フレイル予防、ライフステージにあった健幸づくりの取り組みを行ってきました。

厚生労働省は 2024 年度から進める健康日本 21（第三次）の基本的な方向として、「健康寿命の延伸・健康格差の縮小」を掲げ、その中で、「社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上」、「自然に健康になれる環境づくり」、「誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備」を推進しており、本市が進めてきた施策方針との連携が可能となってきました。

このような中、本市としましては、国の方針との連携を図りながら、これまでの計画の理念を継承しつつ、「個から集団へ」、「点から線へ」の「ひろがり・つながり」を重視した計画として、第 3 次いづか健幸都市基本計画を策定しました。

本計画が市民の皆様をはじめ、医療・福祉関係者や企業、大学など様々な主体の参画を得て、「ALL（オール）飯塚」で健幸都市を実現し、地方のロールモデル（お手本）となること、そして飯塚の価値や魅力の向上につながることを期待しております。

飯塚市長 武井政一

目次

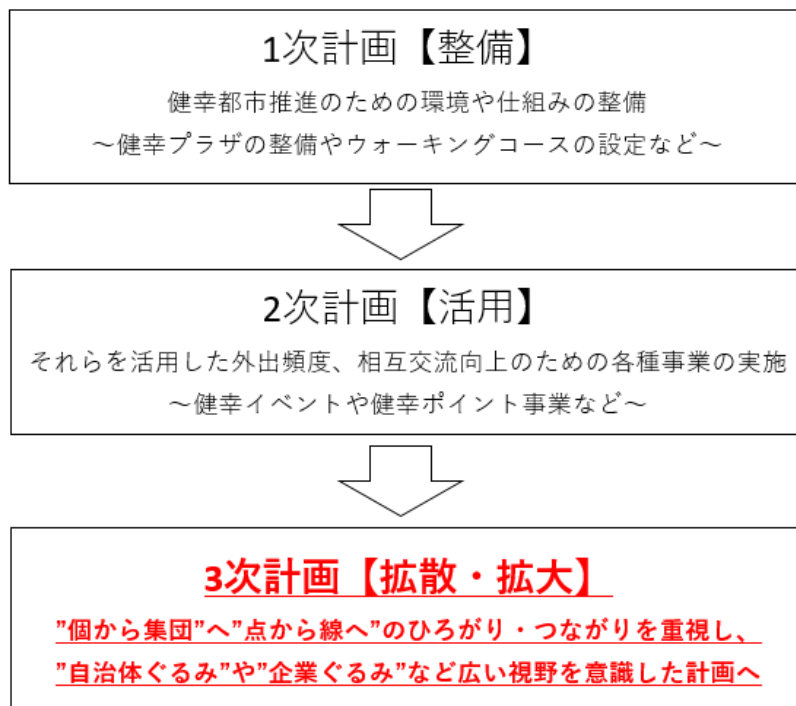
第1章 基本計画策定の趣旨	1
第2章 飯塚市の現状	2
1 少子高齢化の状況	2
2 地域コミュニティの状況	3
3 医療・介護保険の状況	4
4 介護認定率の状況	5
5 特定健康診査・特定保健指導の実施状況	6
6 生活習慣病の治療者数	7
7 メタボリックシンドロームの状況	8
8 運動習慣の有無及び平均歩数	9
9 体育施設の利用状況	10
10 公共交通の利用状況	12
第3章 第2次いづか健幸都市基本計画の振り返り	15
1 成果	15
2 課題	15
第4章 基本方針	17
1 第3次いづか健幸都市基本計画の基本方針	17
2 計画の目的	18
3 計画の位置付け	19
4 計画の期間	19
5 計画の進捗管理	19
第5章 基本事業	20
1 まちの健幸づくり	20
2 ひとの健幸づくり	20
3 公民連携の健幸づくり	20
4 各施策の詳細	22

第1章 基本計画策定の趣旨

本市では、第2次飯塚市総合計画において「健幸都市づくりの推進」を施策の柱に掲げ、そのなかで、個々人が健康かつ生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を営むことのできること＝健幸（＊1）を「まちづくり」の中核に位置づけ、ライフステージに合わせた心と体の健康づくりを進め、市民誰もが健康で心豊かに暮らすことのできる健幸都市の実現を目指してきました。

この「いづか健幸都市基本計画」は、本市が目指す健幸都市の将来像「すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせるまち」の実現のため、第1次計画（2014年3月）では「拠点・コミュニティづくり、健幸づくり、公共交通ネットワークづくり」を軸とした「健幸都市推進のための環境や仕組みの整備」を目標に策定、第2次計画（2019年3月）では幅広い分野での取り組みを含め「まち・ひと・しごと」という地方創生の考え方を踏まえた分野横断の総合的な計画とした「外出頻度、相互交流向上のための各種事業への活用」を目標に策定、各種事業を実施してきました。

本計画では、これまで実施してきた健幸都市実現のための各種施策を「個から集団へ」、「点から線へ」と、より「ひろがり・つながり」を重視した展開を行うとともに、健康日本21（第三次）を基にした市町村計画である飯塚市健康増進計画との連携、将来の融合を見据えた計画として「第3次いづか健幸都市基本計画」を策定します。



（＊1）健幸とは

単に病気を予防する、病気の回復を図る、あるいは体力の向上を目指すという一般的な健康だけではなく、人と人とのつながりを深め、社会活動にも参加し健康で生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を営むことができることをいいます。

第2章 飯塚市の現状

1 少子高齢化の状況

国勢調査の年齢3区分別人口の推移をみると、人口減少、少子化の要因により、高齢化が急速に進行しています。

図1：総人口・年齢3区分別人口の推移

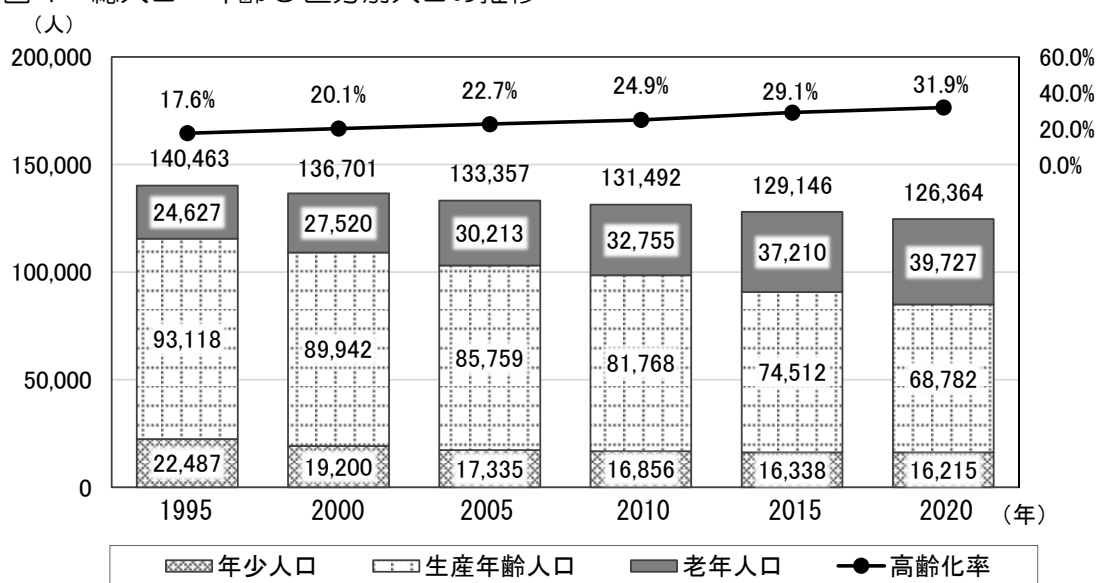


表1：総人口・年齢3区分別人口の推移

単位：(人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	140,463	136,701	133,357	131,492	129,146	126,364
年少人口(0~14歳)	22,487	19,200	17,335	16,856	16,338	16,215
構成比	16.0%	14.0%	13.0%	12.8%	12.7%	12.8%
生産年齢人口(15~64歳)	93,118	89,942	85,759	81,768	74,512	68,782
構成比	66.3%	65.8%	64.3%	62.2%	57.7%	54.4%
高齢者人口(65歳以上)	24,627	27,520	30,213	32,755	37,210	39,727
構成比	17.5%	20.1%	22.7%	24.9%	28.8%	31.4%

資料：国勢調査（※総人口は年齢不詳を含む）

2 地域コミュニティの状況

自治会加入率は年々減少し、解散する自治会も近年でてきており、どのようにして地域コミュニティを存続し続けていくかは、多くの自治会においての共通の課題となっています。加入率減少の要因としては、集合住宅（マンションやアパート）の増加、過疎化・高齢化等の地域的要因や、SNSの普及等のIT化による無縁社会の進行といった社会的要因が考えられます。また若年層においては、ゴミ集積所や防犯灯の管理を自治会（隣組）が担っていると知らない方も多く、「自治会活動」に対する認識が薄れていることも原因のひとつです。

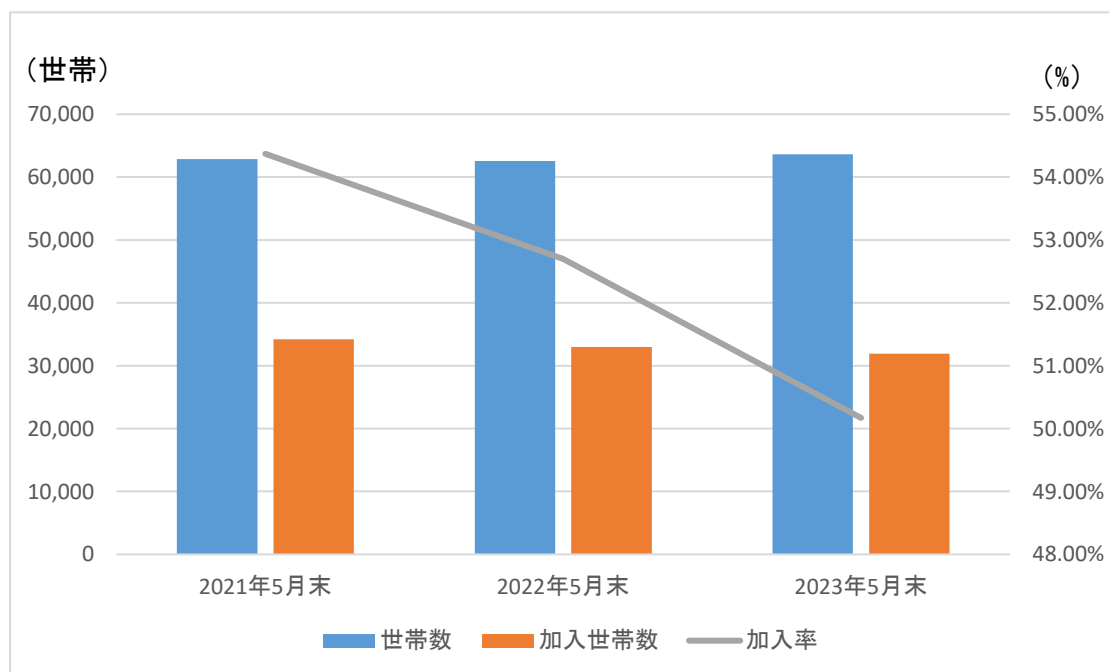
自治会加入率の低下により、地域を支える人材の高齢化及び人材不足、地域のつながりが薄れてきています。その結果、防災・防犯、子育て支援や高齢者の支え合いなど、地域が抱える課題の解決が困難になるとともに、市民個々人の不活化により、心や体の健康低下にもつながります。

表 2：自治会加入率等の推移

	2021年5月末	2022年5月末	2023年5月末
人口（人）	126,976	126,118	125,282
世帯数（世帯）	62,866	62,547	63,651
加入世帯数（世帯）	34,181	32,960	31,935
加入率（％）	54.37%	52.7%	50.17%

出典：飯塚市提供資料

図 2：自治会加入率等の推移



出典：飯塚市提供資料

3 医療・介護保険の状況

1)医療費の状況(国民健康保険)

近々の状況は、新型コロナウイルスによる外出自粛の影響等により総医療費等は横ばい傾向であるものの、1人当たり医療費は増加しており、依然として高水準な状況が続いています。

表 3：国民健康保険の加入状況

年度		2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31・R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
世帯数		18,194	17,819	17,653	17,596	17,588
被保険者	一般	28,466	27,854	27,364	27,032	26,780
	退職	442	171	36	0	0
	計	28,908	28,025	27,400	27,032	26,780

(注) 各年度平均数

出典：統計いづか 2022

表 4：国民健康保険・医療費の状況

年度		2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31・R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
総医療費	一般	11,145,385	11,108,524	10,989,643	10,798,810	11,225,413
	退職	199,675	46,025	16,680	0	0
	計	11,345,060	11,154,549	11,006,323	10,798,810	11,225,413
1人当たり 医療費	一般	391,533	398,813	401,610	399,482	419,171
	退職	451,754	269,151	463,340	0	0
	全体	392,454	398,021	401,691	399,482	419,171
出産育児一時金件数(件)		140	107	129	100	109
葬祭費件数(件)		145	183	168	143	173

出典：統計いづか 2022

2)1件あたりの介護給付費

1件あたりの介護給付費は国や県をやや下回っています。

表 5：1件あたりの介護給付費の状況

(単位：円)

	飯塚市	県	国
全体	329,529	339,605	337,636
居宅サービス	40,993	41,206	41,272
施設サービス	288,536	298,399	296,364

出典：KDBシステム(2022年度)

4 介護認定率の状況

要介護等認定者数（全体）は、2019（令和元）年度まで増加傾向でしたが、2020（令和2）年度には減少に転じ、2023（令和5）年9月末では8,377人となっています。認定率は概ね減少傾向にあります。全国・福岡県の平均認定率と比較すると依然として高い水準となっています。

図3：要介護等認定者数・認定率の推移

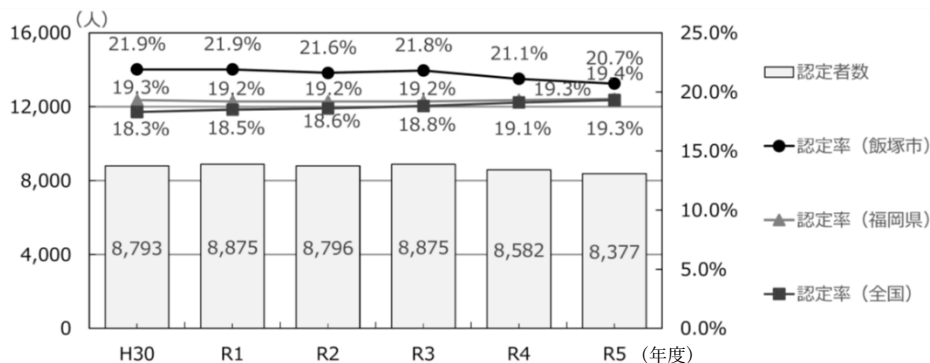
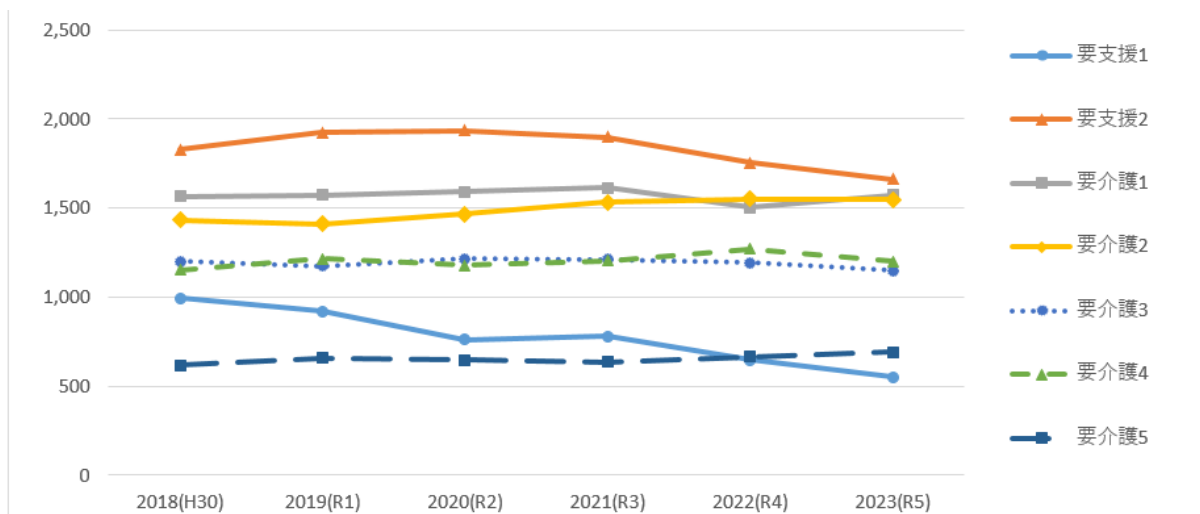


表6：要介護等級別認定者数の推移

(単位：人)

	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)
要支援1	994	920	763	781	646	552
要支援2	1,827	1,924	1,936	1,897	1,754	1,661
要介護1	1,567	1,573	1,591	1,612	1,503	1,574
要介護2	1,433	1,409	1,467	1,532	1,550	1,549
要介護3	1,200	1,176	1,214	1,212	1,193	1,149
要介護4	1,153	1,214	1,179	1,205	1,272	1,200
要介護5	619	659	646	636	664	692
認定者計	8,793	8,875	8,796	8,875	8,582	8,377
うち第1号認定者数	8,686	8,767	8,703	8,788	8,495	8,297

図4：要介護等級別認定者数の推移



出典：介護保険事業報告（H30～R1）

※介護保険事業状況報告月報（各年9月末）(R2～R5)

※認定率＝要介護等認定者数（第1号被保険者）÷高齢者人口

5 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

特定健康診査（以下、「特定健診」）の受診率をみると、2017（平成29）年度では50.2%と対象者の約半数が受診していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、2020（令和2）年度では39.7%まで減少しています。

図5：特定健康診査の対象者、受診率の推移

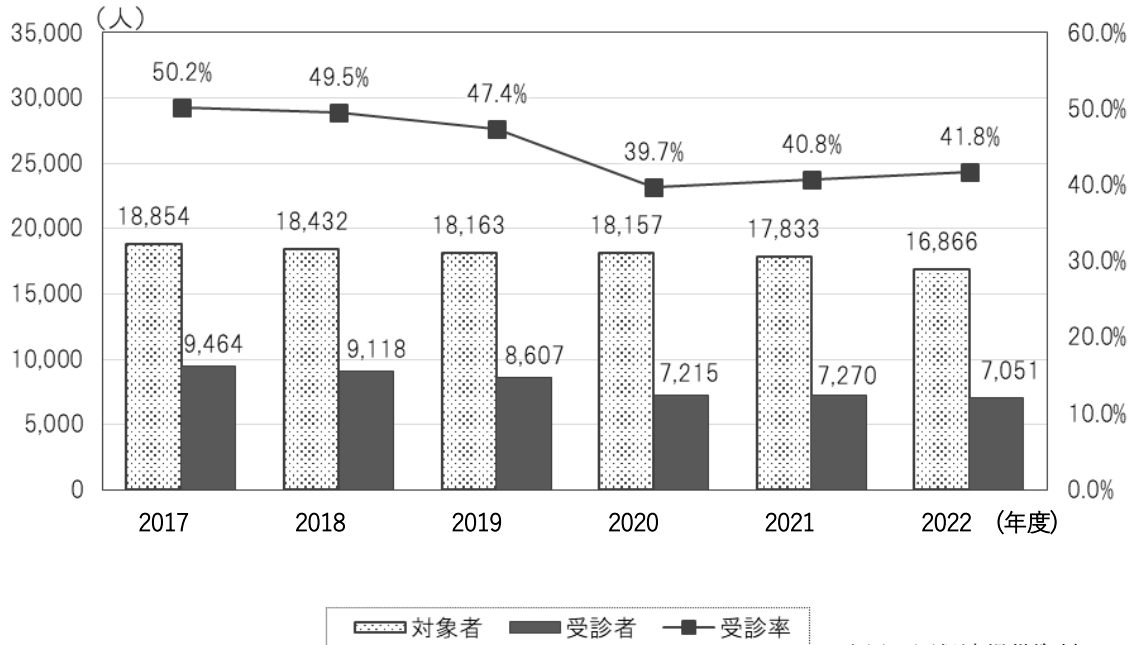
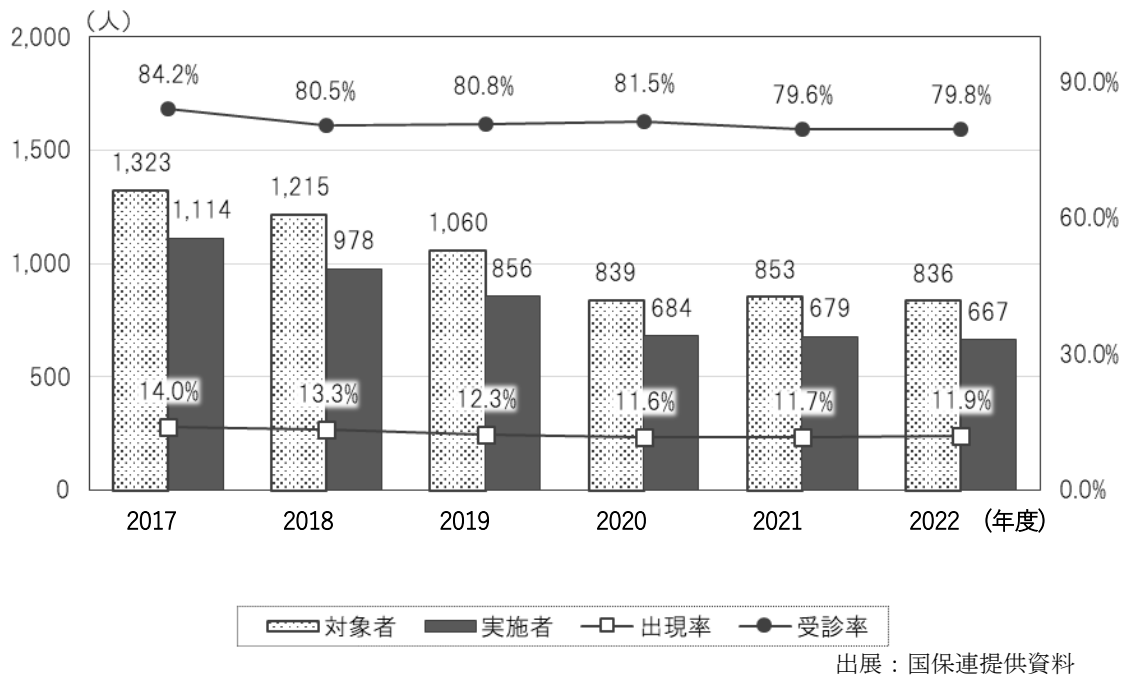


図6：特定保健指導の対象者、出現率及び実施率の推移



6 生活習慣病の治療者数

生活習慣病の治療者数をみると、中期的な疾患では「脳血管疾患」、「虚血性心疾患（*1）」が、短期的な疾患では「高血圧症」、「脂質異常症(*2)」の割合が高くなっています。

生活習慣病 1 件あたりの費用額の県内順位（2022 年度）では、入院では「精神」が最も高く、次いで「高血圧」、「腎不全」と続いています。いずれの疾患も県内順位は高くなっています。外来の県内順位は、「精神」が最も高く、次いで「脳血管疾患」となっていますが、入院と比較すると、県内順位は低くなっています。

表 7：生活習慣病の治療者数の状況

区分	中期的な疾患			短期的な疾患			
	脳血管疾患	虚血性心疾患	糖尿病性腎症	高血圧症	糖尿病	脂質異常症	
全体	951人 9.0%	943人 8.9%	134人 1.3%	6,014人 56.7%	3,134人 29.5%	4,898人 46.2%	
基礎疾患の 重なり	高血圧	769人	784人	110人	0人	2,216人	2,050人
		80.9%	83.1%	82.1%	0.0%	70.7%	41.9%
	糖尿病	382人	421人	134人	2,216人	0人	3,396人
		40.2%	44.6%	100.0%	36.8%	0.0%	69.3%
	脂質異常症	603人	686人	86人	3,396人	2,050人	0人
		63.4%	72.7%	64.2%	56.5%	65.4%	0.0%

出典：国保連提供資料（2021 年度）

表 8：生活習慣病 1 件あたりの費用額

	入院 (円)	県内順位 (/60位)	外来 (円)	県内順位 (/60位)
糖尿病	716,651	17位	33,430	29位
高血圧	730,071	11位	26,563	42位
脂質異常症	683,829	14位	23,338	49位
脳血管疾患	763,949	20位	35,696	12位
心疾患	801,658	22位	36,901	36位
腎不全	869,884	13位	85,911	30位
精神	575,029	9位	30,811	9位
悪性新生物	771,328	19位	66,132	21位

出典：健康・医療・介護データからみる地域の健康課題（2022 年度）

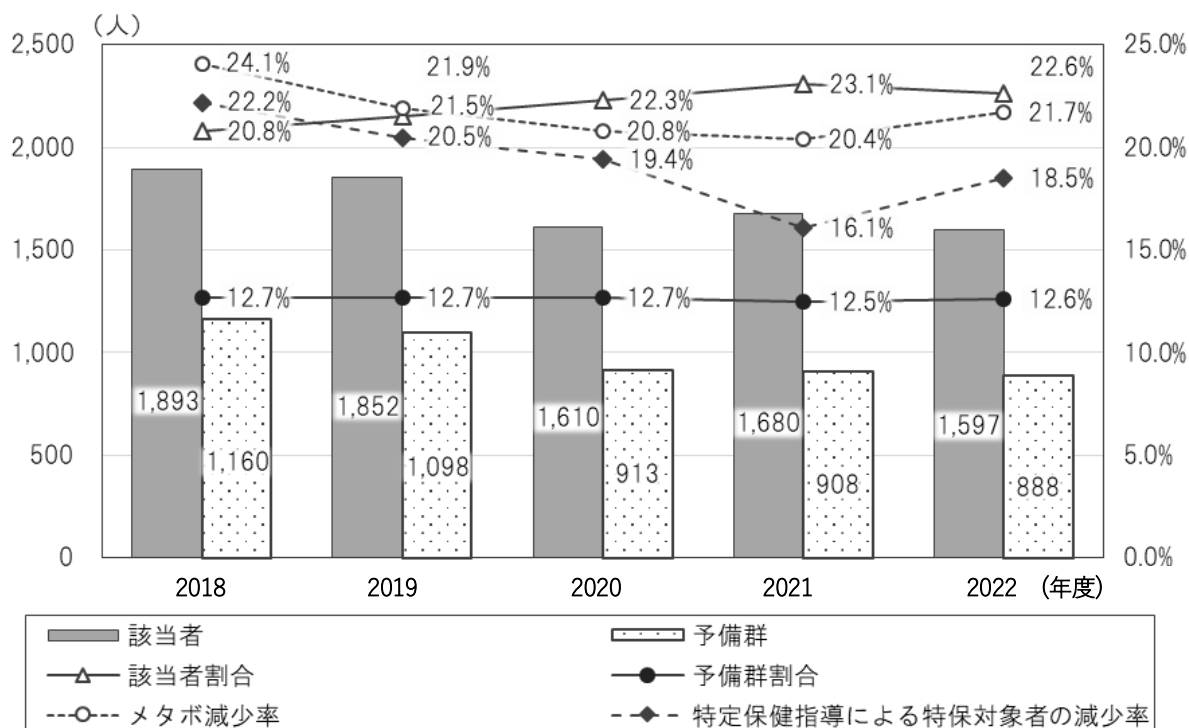
(*1) 虚血性心疾患：冠動脈が動脈硬化などの原因で狭くなったり、閉塞したりして心筋に血液が行かなくなることで起こる病気

(*2) 脂質異常症：血液中の中性脂肪やコレステロールなどの脂質の濃度が基準の範囲にない状態をいう。脂質異常の状態を放置すると、心臓病や脳卒中など循環器疾患の原因となる

7 メタボリックシンドロームの状況

メタボリックシンドローム該当者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による特定健診の受診者数が減少したために減少しています。該当者割合は増加傾向にあります。予備群の割合に大きな変動はなく12.5%前後となっています。

図7：メタボリックシンドローム該当者・予備群の状況



出典：法定報告関連帳票（TKCA012 特定健診・特定保健指導実施結果）

8 運動習慣の有無及び平均歩数

運動習慣の有無についてアンケート結果を見ると、約半数の方に運動習慣がなく、歩数からみた運動の習慣状況では、80%を超える方が運動不十分層にあたる状況です。

平均歩数に関しても、健幸ポイント事業への参加により歩数増加の傾向はみられるものの、依然として、全国平均及び福岡県の平均を下回っています。

表 9：運動習慣のアンケート結果

	はい	いいえ
1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している	49.1%	50.9%
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している	52.5%	47.5%

出典：健幸ポイント事業参加者アンケート

表 10：運動習慣の有無（歩数からみた運動の習慣状況）

	運動の習慣がある（運動十分層）	運動の習慣がない（運動不十分層）
全体	17.4%	82.6%
男性	26.0%	74.0%
女性	13.5%	86.5%

出典：健幸ポイント事業参加者アンケート

表 11：平均歩数の状況

◆全国・福岡県

	男性	女性
全国平均	6,846歩	5,867歩
福岡県	7,474歩	7,155歩

出典：厚生労働省 国民健康・栄養調査結果の概要2017

◆飯塚市（健幸ポイント事業参加者の歩数データ）

	参加前			参加後		
	全体 (2,164人)	男性 (675人)	女性 (1,489人)	全体 (2,164人)	男性 (675人)	女性 (1,489人)
全体	5,318歩	6,229歩	4,905歩	6,756歩	8,206歩	6,099歩
65歳未満	5,186歩	6,028歩	4,807歩	6,498歩	7,529歩	6,034歩
65歳以上	5,399歩	6,352歩	4,966歩	6,915歩	8,620歩	6,140歩

出典：健幸ポイント事業参加者データ

※（）内人数はサンプル数

9 体育施設の利用状況

各体育施設ともに、2020（令和2）年度以降は新型コロナウイルス感染症による利用停止の影響と活動自粛により減少していたものの、次第に増加傾向になっています。

図8：体育施設利用者の推移

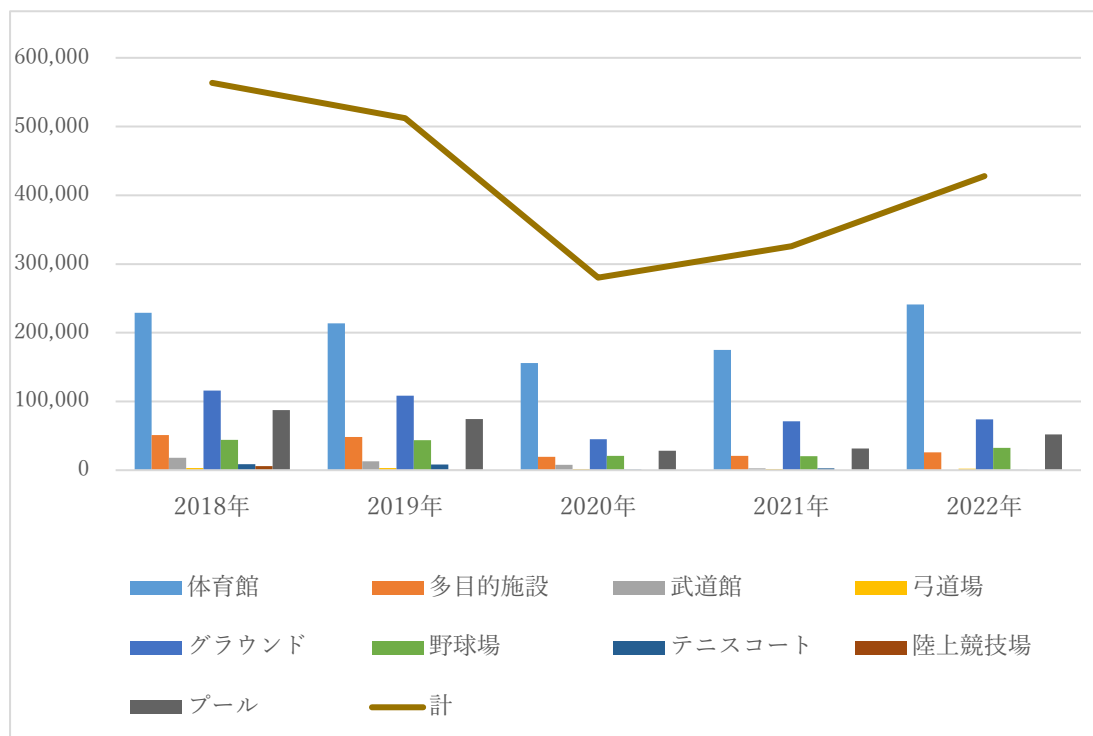


表12：体育施設利用者の推移

(単位：人)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
体育館	229,169	213,812	156,049	174,784	240,899
多目的施設	50,938	48,092	19,546	21,007	25,972
武道館	17,902	13,054	7,980	2,757	0
弓道場	3,198	3,088	1,648	1,600	1,977
グラウンド	116,079	108,388	45,162	71,213	73,985
野球場	44,038	43,610	20,906	20,214	32,544
テニスコート	8,835	8,122	783	2,665	168
陸上競技場	5,884	60	0	0	0
プール	87,515	74,172	28,108	31,677	52,136
計	563,558	512,398	280,182	325,917	427,681

出典：飯塚市提供資料

トレーニング室も各体育施設と同様、新型コロナウイルス感染症による影響で2020（令和2）年度時には減少傾向であったものの、次第に増加傾向になっています。

図 9：トレーニング室利用者の推移

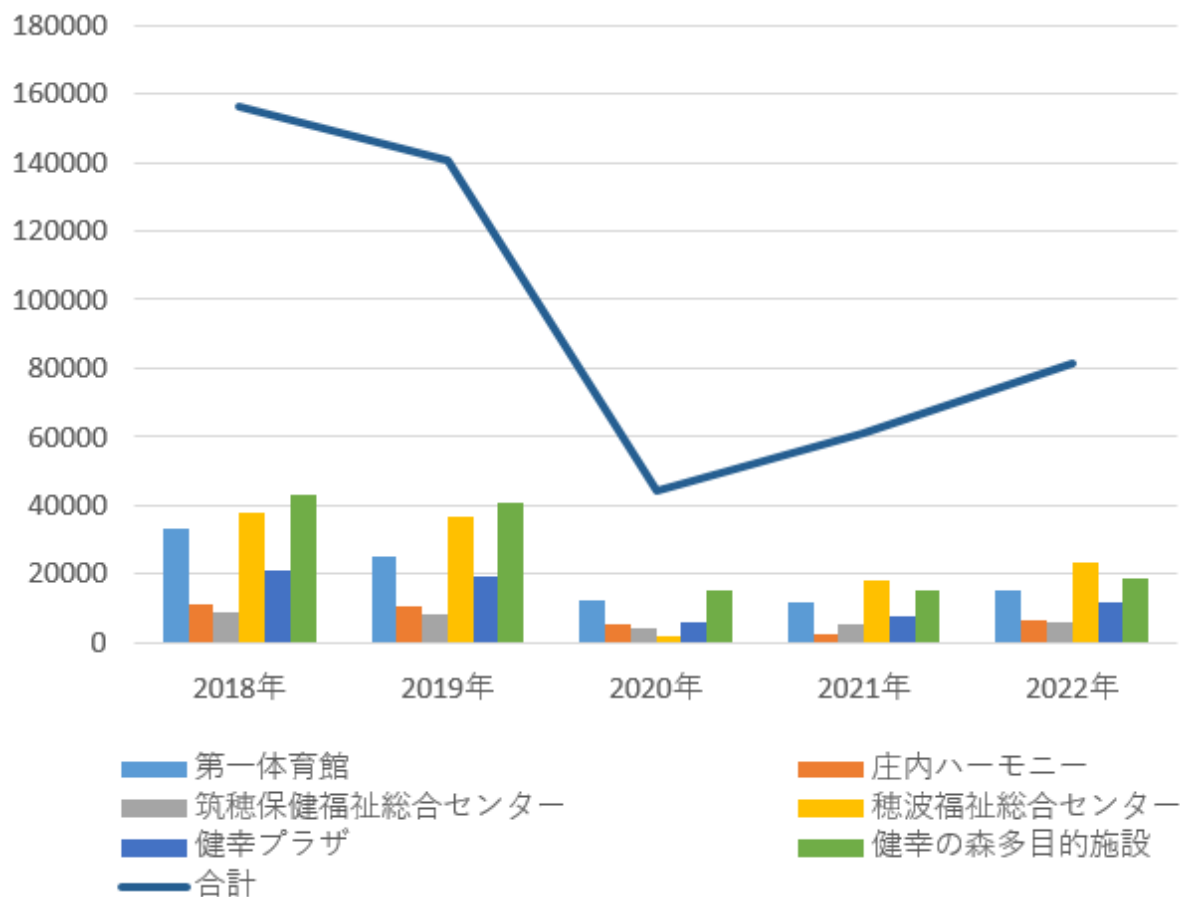


表 13：トレーニング室利用者の推移

(単位：人)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
第一体育館	33,559	25,363	12,123	12,089	15,290
庄内ハーモニー	11,333	10,464	5,541	2,431	6,406
筑穂保健福祉総合センター	8,875	8,466	3,999	5,235	5,872
穂波福祉総合センター	37,913	36,676	1,743	18,257	23,189
健幸プラザ	21,186	19,129	5,886	7,669	11,941
健幸の森多目的施設	43,159	40,558	15,139	15,436	18,605
計	156,025	140,656	44,431	61,117	81,303

出典：飯塚市提供資料

10 公共交通の利用状況

1) 鉄道(JR)

新飯塚駅の利用者は2018（平成30）年度までは堅調に伸びていますが、その他の駅の利用者は横ばいまたは減少傾向となっています。

2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各駅の利用者数は急減しています。

表 14：JR九州 駅別・年度別乗客数

(単位：人/日)

年度	福北ゆたか線						後藤寺線		原田線		
	鯉田駅	浦田駅	新飯塚駅	飯塚駅	天道駅	筑前大分駅	九郎原駅	上三緒駅	筑前庄内駅	上穂波駅	筑前内野駅
2016(H28)	389	100人以上	4,434	1,134	537	732	—	—	—	—	—
2017(H29)	393	100人以上	4,503	1,141	548	731	—	—	—	—	—
2018(H30)	367	100人以上	4,520	1,122	563	706	—	—	—	—	—
2019(R1)	361	100人以上	4,494	1,126	566	678	—	—	—	—	—
2020(R2)	279	100人以上	2,994	757	415	468	—	—	—	—	—

※各駅乗車人員で集計

出典：九州旅客鉄道株

2) 民間路線バス

民間路線バスの利用者数は減少傾向にあり、2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、急減しています。

JR九州バスは2019（令和元）年9月30日をもって路線が廃止となっています。

表 15：民間路線バス年度別乗客数

(単位：千人)

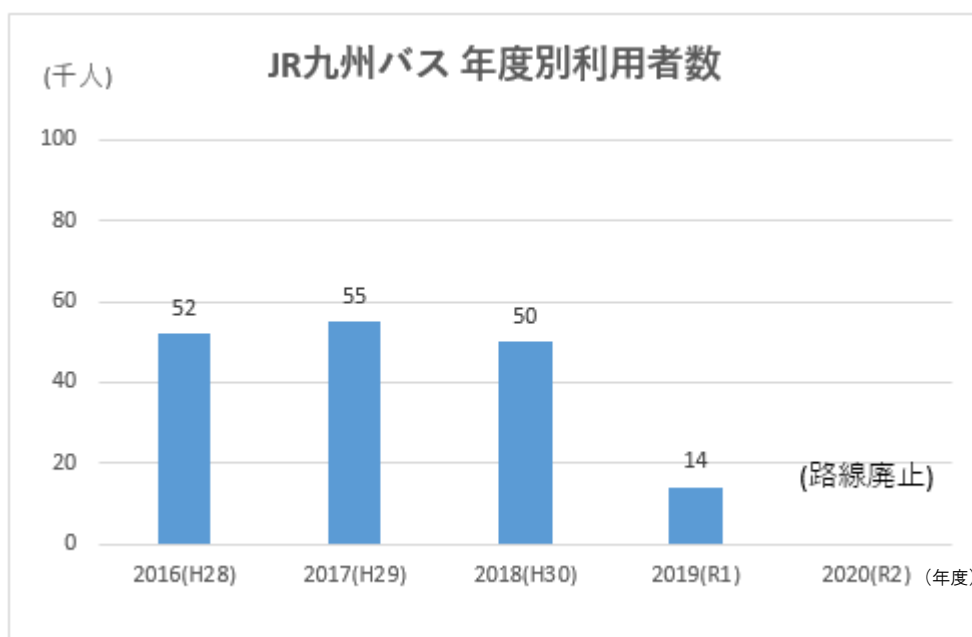
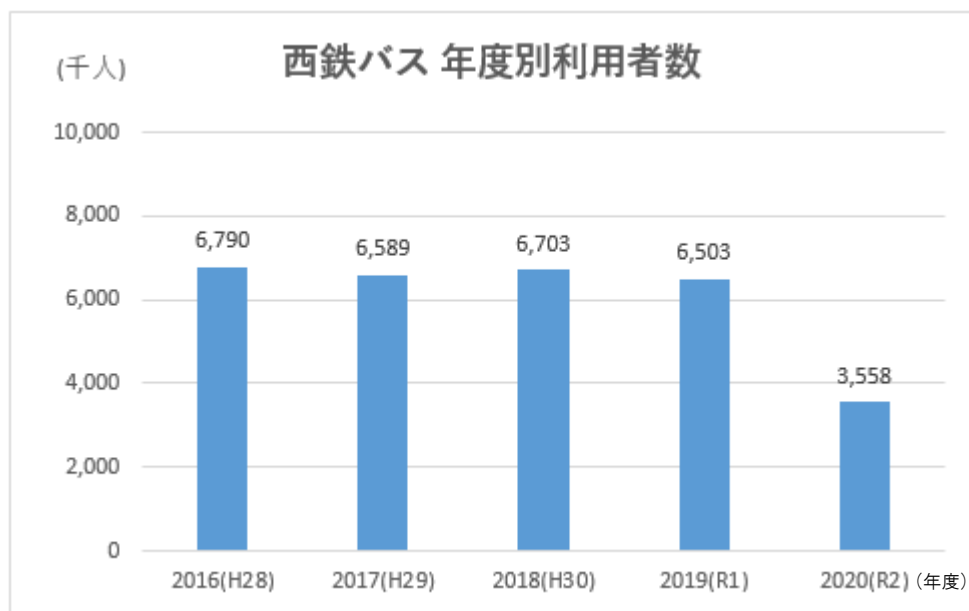
年度	西鉄バス	JR九州バス	合計
2016(H28)	6,790	52	6,842
2017(H29)	6,589	55	6,642
2018(H30)	6,703	50	6,753
2019(R1)	6,503	14	6,517
2020(R2)	3,558	(路線廃止)	3,558

※JR九州バスは市内笠置橋～新飯塚駅間

2019（令和元）年9月路線廃止

出典：統計いづか

図 10：民間路線バス年度別乗客数の推移



※JR九州バスは市内笠置橋～新飯塚駅間

2019（令和元）年9月路線廃止

出典：統計いづか

(3)飯塚市コミュニティ交通利用者数

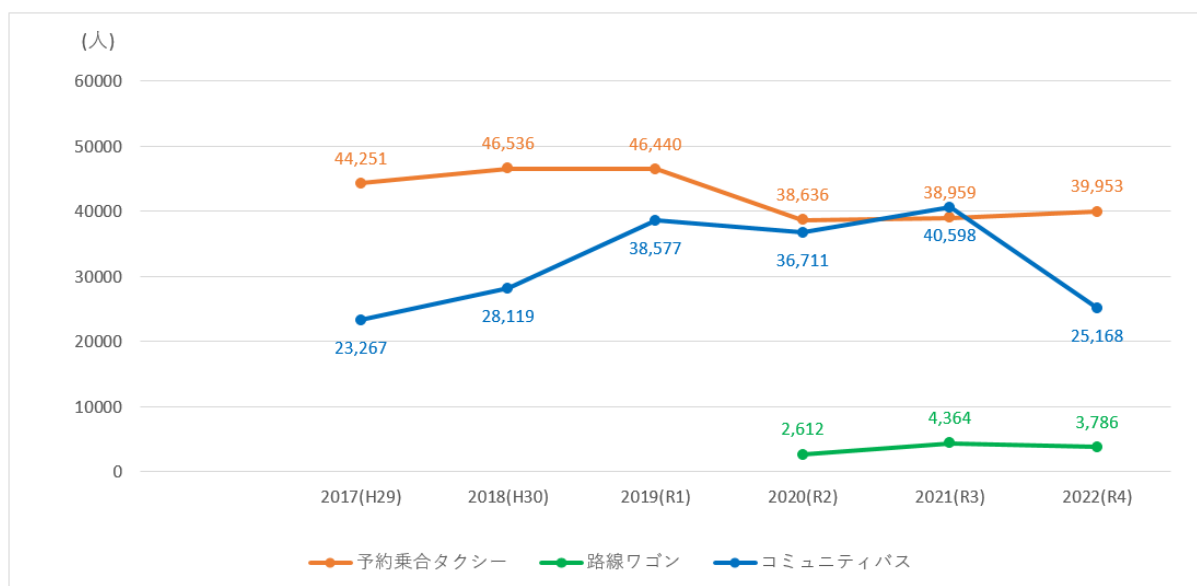
予約乗合タクシー、コミュニティバスともに、2019（令和元）年度までは停留所数増加等の影響もあり増加傾向にて推移していましたが、2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用者数が減少しましたが、その後は徐々に回復しています。

また、JR九州バスの一部区間廃止に伴い宮若市と共同で運行を開始した宮若市・飯塚市共同運行コミュニティバスの乗客数は、2019（令和元）年10月1日の運行開始以降平日・土日祝日ともに増加しています。

表 16：飯塚市コミュニティ交通 利用者数 (単位：人)

年度	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
エリアワゴン	—	—	—	—	—	31,313
予約乗合タクシー	44,251	46,536	46,440	38,636	38,959	39,953
路線ワゴン				2,612	4,364	3,786
コミュニティバス	23,267	28,119	38,577	36,711	40,598	25,168
コミュニティバス(飯塚市)	23,267	28,119	31,071	26,330	28,060	11,376
コミュニティバス(宮若市と共同運行)	—	—	7,506	10,381	12,538	13,792

図 11：飯塚市コミュニティ交通 利用者数



※エリアワゴンは2022(令和4)年から運行開始

出典：飯塚市提供資料

第3章 第2次いづか健幸都市基本計画の振り返り

1 成果

計画期間中の多くが新型コロナウイルス感染症による影響を受けた結果となりましたが、デジタル技術を活用し、コロナ禍でも実施できる健幸づくりの方法を提供するなど、コロナによる健康2次被害の防止に努めました。また令和2年度よりICTを活用し本格的に取り組んでいる「いづか健幸ポイント事業」をはじめ、健康意識を高めるための各種事業に取り組むことができました。

特に、「道路路側帯グリーンベルト整備延長距離」・「飯塚市コミュニティ交通利用者数」については、当初の目標値を上回る成果が出ており、ハード面の整備に関して順調に整備を進めることができました。

また、「健幸ポイント事業参加者数」についても、当初目標を上回る成果が出ており、市民の健康意識の向上につなげることができました。

2 課題

一部の成果は得られたものの新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、施設の閉鎖や講座の中止を余儀なくされる事態が長期間におよび、多くの項目で、目標値を大きく下回る結果となりました。

コロナ禍でも内容や方法を検討し実施しましたが、特に出前式の講座やイベントの参加者数においては、大きく未達となっています。また、健康に関心のある市民には効果的なアプローチができており、更なる健康増進を促すことができますが、健康に関心のない市民(健康無関心層)に対して効果的なアプローチができていないのが現状です。

以上のことから大きく下記の2点が現状の課題として考えられます。

【現状の課題】

- 事業のありかたの多様性の検討（デジタル化等含む）
- 健康無関心層へのアプローチ

表17（参考資料）第2次健幸都市基本計画における各事業の進捗状況

1. まちの健幸づくり				
歩いて暮らすまちづくり				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
道路路側帯グリーンベルト整備延長距離	1,900m	3,700m	3,755m	101%
公共交通ネットワークづくり				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
コミュニティ交通利用者数	78,965人	93,000人	100,220人	108%
まちの賑わいづくり				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
車いすテニス大会への参加者数	9,334人	11,000人	1,150人	10%
2. ひとの健幸づくり				
運動機会・体力づくりの充実				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
市主催ウォーキングイベント参加者数	1,149人	1,700人	928人	55%
健康運動教室参加者数	19,238人	21,000人	9,296人	44%
健康的な食生活の推進				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
健康出前講座実施数	19回	30回	13回	43%
社会参加・生きがいづくり				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
飯塚市フレイル予防サポーター登録人数	65人	250人	99人	39.60%
健康教育の推進				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
健幸ポイント事業参加者数	652人	※ 5,040人	3,642人	72.26%
3. しごとの健幸づくり				
大学・企業等との連携				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
大学との包括連携協定による健康に関する事業実施数	0件	3件	0件	0%
地域産業・健康産業との連携、支援				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
地元食材を活用した事業数の割合	95.4%	100%	86.5%	86.5%
健康経営の推進				
目標達成指数（KPI）	基準値 〔2017(H29)年度〕	最終目標値 〔2023(R5)年度〕	現在値 2022(R4)年度現在	進捗率
事業所訪問事業実施数	0件	5件	3件	60%

第2章等で前述した項目等については資料から除く

※健幸ポイント事業参加者数の2022（令和4）年度時点の進捗目標値は3,380人

第4章 基本方針

1 第3次いづくか健幸都市基本計画の基本方針

「健幸都市」とは、個々人が健康かつ生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を営むことのできること（健幸）を「まちづくり」の中核に位置づけ、市民誰もが健康で心豊かに暮らすことのできる都市のことです。

心身共に健やかに笑顔で暮らし続けることは、全ての人の共通の願いであり、また、医療費をはじめ社会保障費の増大が家計や財政を逼迫させる中、健康寿命の延伸は社会全体の課題となっています。さらに、人と人との繋がりや交流を深めることは地域コミュニティの基本であり、地域づくりの原点と考えます。

市民誰もが地域とのつながりを大切にし、地域の一員として活躍するためにも、心身ともに健康であり続けることが重要であり、市民がいきいきと笑顔で暮らすことが飯塚市全体の活力となり、まちづくりの原動力となります。

このようなことから、第1次計画、第2次計画に続き、本市が目指す健幸都市の将来像を「すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせるまち」とします。

飯塚市が目指す健幸都市の将来像
「すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせるまち」

※健幸都市の将来像の実現に向け、第3次いづくか健幸都市基本計画では、「ひろがり、つながりに焦点を当てた健幸のまちづくり」をコンセプトとし、「個」から「集団」、「点」から「線」へのひろがり・つながりを重視した広い視点で総合的な施策を推進します。

2 計画の目的

第2次計画から引き続き、「健康寿命の延伸」を本計画の目的とします。

健康寿命とは、厚生労働省白書によると「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されており、平均寿命は今後も延伸が予測されています。平均寿命の伸び以上に健康寿命を延ばすことは不健康な状態になる時点を遅らせ、健やかに暮らす期間の延伸につながります。

図12 平均寿命と健康寿命の推移

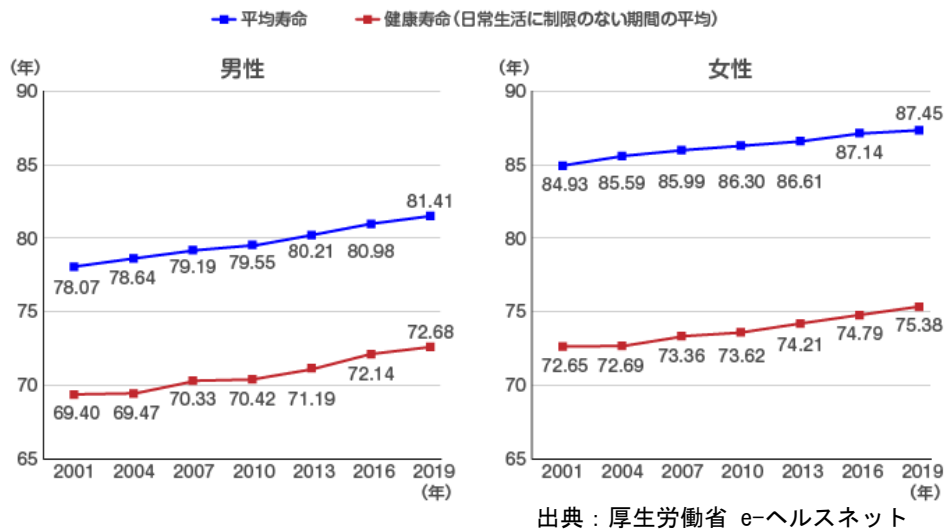
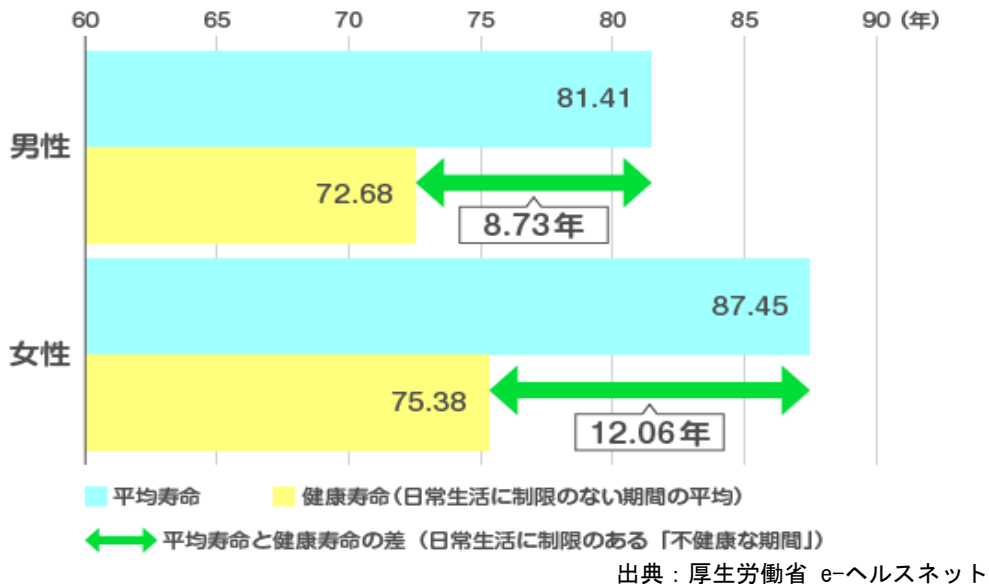


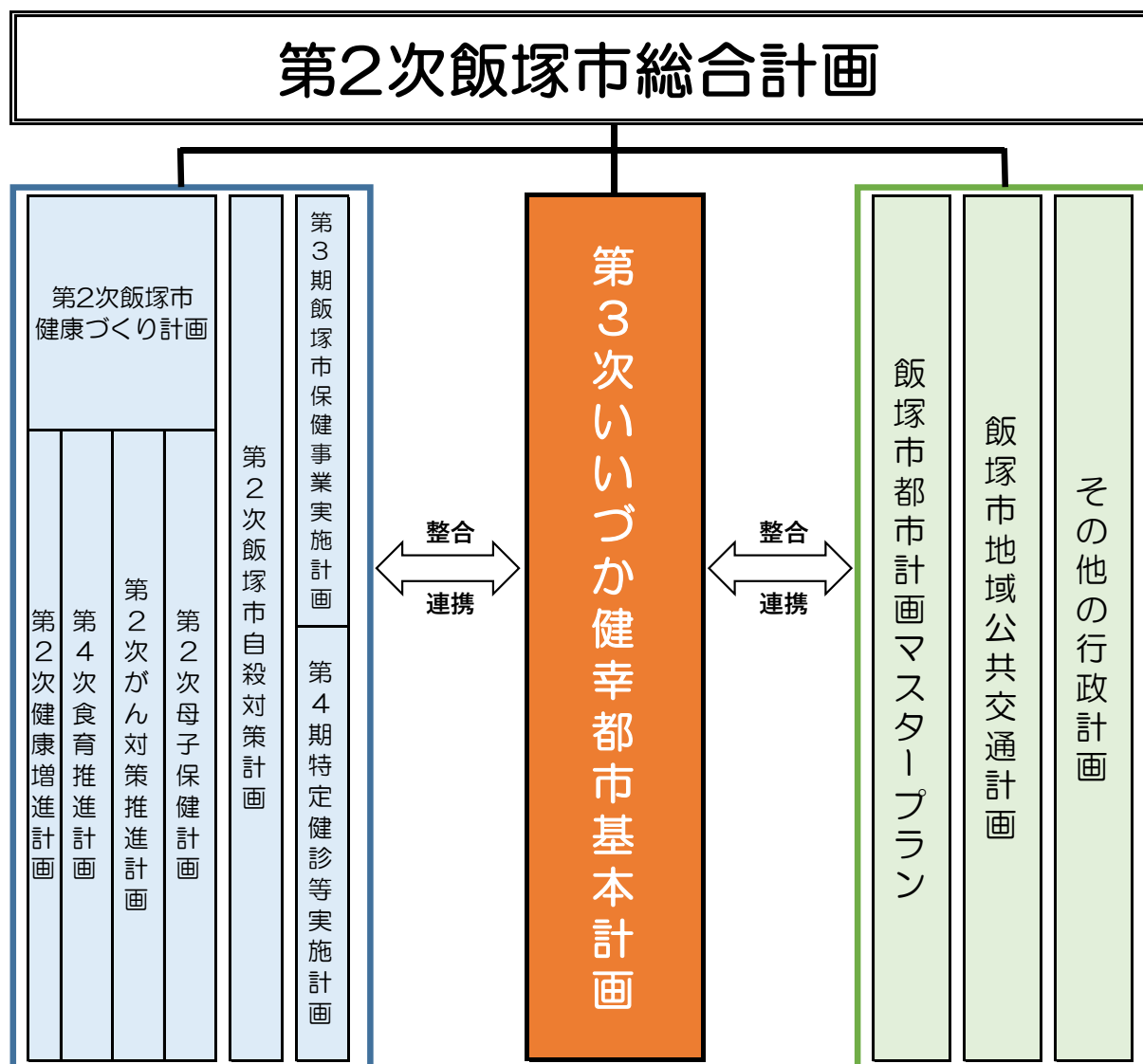
図13 平均寿命と健康寿命の差（2019年）



3 計画の位置付け

本計画は「第2次飯塚市総合計画」を上位計画とし、飯塚市健康づくり計画や飯塚市地域福祉計画など各種関連計画との整合を図りながら、健幸都市実現のための取り組みを推進する計画です。市民、関係機関・団体、事業者等と行政が一体となって推進する行動計画を策定します。

図14 第3次いづか健幸都市基本計画の位置付け



4 計画の期間

本計画の期間は、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5年間とします。ただし、社会情勢等の変化を考慮し、必要に応じて見直しを行います。

5 計画の進捗管理

本計画の進捗管理は、PDCAの手法により、毎年度健幸都市推進委員会で行い、進捗状況は市のホームページで公表します。

第5章 基本事業

事業の構成については、第2次計画での基礎となった「市民が外出頻度を高め、まちを歩き、行き交うことで歩行運動を増加させ、かつ相互に交流を深めることで健康づくりや生きがいづくりを増進させる。そのような魅力ある仕組みづくりを進め、持続可能で、より効果的な取り組みとなる」よう構成し、あわせて、第2次計画での成果や課題をもとに、「個から集団」、「点から線」へのひろがり・つながりをもたせた「まちの健幸づくり」、「ひとの健幸づくり」、「公民連携の健幸づくり」の3つの柱で構成します。

1 まちの健幸づくり

～ひとと社会をつなぐ健幸のまちづくり～

既存の公共交通機関と地域コミュニティ交通を活用するとともに、歩行者空間の充実に努め、自然と歩きたくなるような「歩いて暮らすまちづくり」に取り組みます。

また、デジタルツールや公共施設を活用し、誰でも参加しやすい形で事業を実施することで、「ひとと社会をつなぐ健幸のまちづくり」に取り組みます。

2 ひとの健幸づくり

～ひとりから仲間、仲間から集団へとひろがる健幸のまちづくり～

定期的な健康診断や各種検診の勧奨、健幸教室・講座の実施等、従来から実施してきた事業にサークルやクラブ活動、自治会活動等、集団にも焦点をあて、健幸の輪のひろがりを推進します。

また、各種事業の啓発・周知活動の見直しを通して、「ひとりから仲間、仲間から集団へとひろがる健幸のまちづくり」に包摂的視点をもって取り組みます。

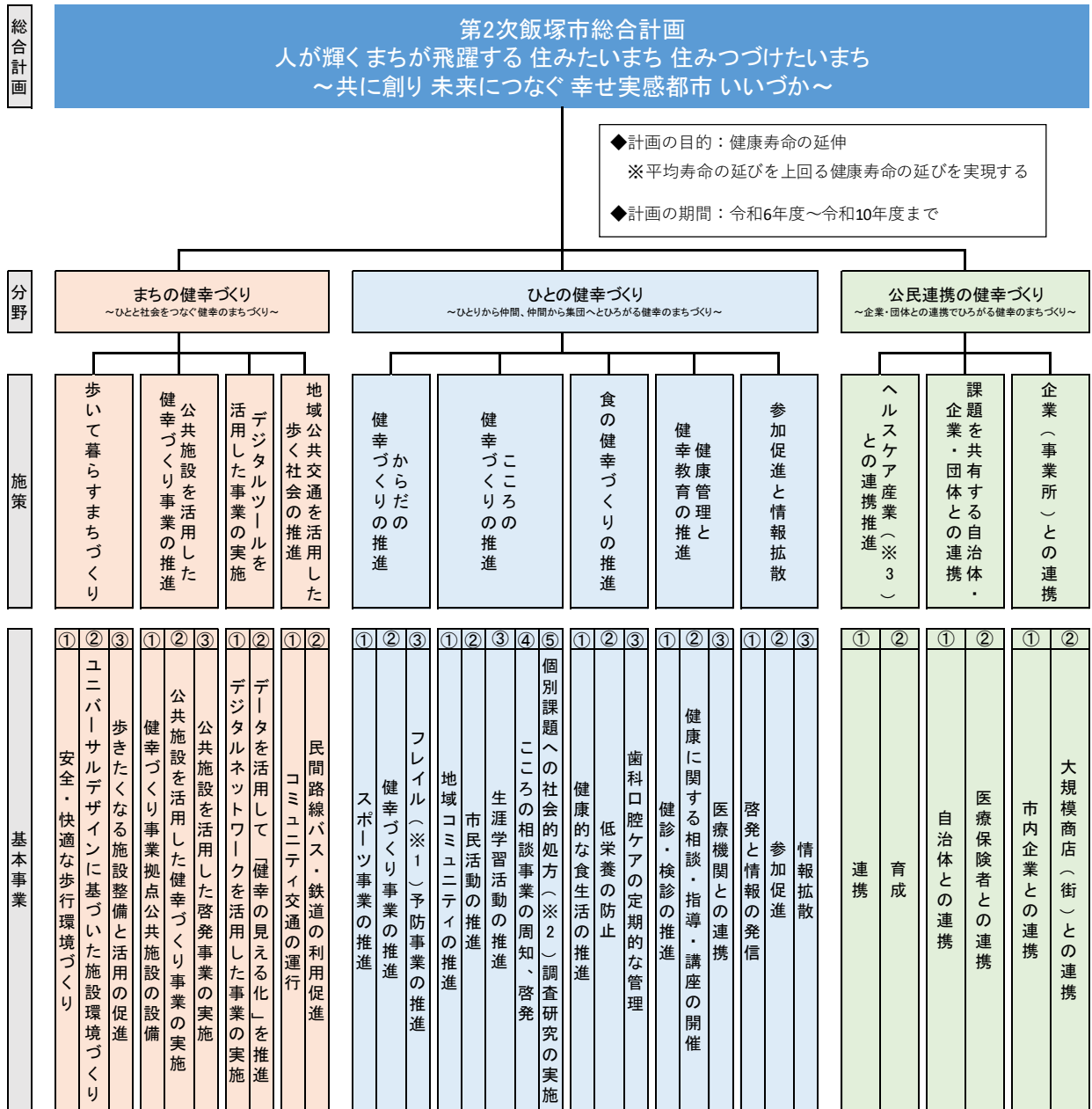
3 公民連携の健幸づくり

～企業・団体との連携でひろがる健幸のまちづくり～

健康関連産業(ヘルスケア産業)や商業施設等との産学官連携を推進し、まち全体で健幸づくりに取り組みます。また、健康経営に取り組む事業所への支援を通し、飯塚市民だけでなく、市で働く方の健幸づくりも推進し、「企業・団体との連携でひろがる健幸のまちづくり」に取り組みます。

基本事業毎の具体的な内容は、P.22 以降に記載します。

図 15 第3次いづか健幸都市基本計画の体系図



※1 フレイル

病気ではないが、年齢とともに筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。

※2 社会的処方

ストレスや孤立などを感じている人に対し、医師が薬の代わりに患者団体などコミュニティの資源などを紹介することで、その人に生き甲斐や社会参加の機会などを持ってもらう方法。

※3 ヘルスケア産業

健康の保持および増進に資する商品の生産もしくは販売または役務の提供を行う産業。医療や介護から高齢者の住まい・病気予防・未病改善・健康増進などを一続きの分野としたサービス業と、医療機器・福祉用具・介護用品・医薬品・健康食品などの製造業を含む。

4 各施策の詳細

1) まちの健幸づくり

【施策】 歩いて暮らすまちづくり		
<p>【施策概要及び方針】</p> <p>歩きたくなるまちづくりの実現に向けて、誰もが安全に、安心して出かけられる環境の整備を進めてきました。今後は整備とともに、整備した施設の活用を促進し歩いて暮らせるまちづくりを進めます。</p>		
基本事業		
<p>① 安全・快適な歩行環境づくり</p> <p>歩車分離など歩きやすく、歩きたくなる道路整備を進めるとともに、整備した道路等の情報を提供し活用を促進します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">～ 推進する事務事業 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飯塚駅周辺整備事業 (都市計画課) ○道路・歩道の新設、改築、改修事業 (関係課) ●まちなかウォークアブル事業の調査研究 (関係課) </div>		
<p>② ユニバーサルデザインに基づいた施設環境づくり</p> <p>ユニバーサルデザインに基づいた公共施設の整備を進めるとともに、公共施設を活用した健康づくり事業や市民活動を促進します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">～ 推進する事務事業 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動等円滑化推進事業 (都市計画課) ○共生社会ホストタウン推進事業 (社会・障がい者福祉課) ○公共施設改革推進事業 (財産活用課) ○公共施設の新設、改築、改修事業 (関係課) </div>		
<p>③ 歩きたくなる施設整備と活用の促進</p> <p>各施設の機能が備える特性の相乗効果を高めるため、ウォーキングコース、公共施設、交通結節点との連携、接続を推進し、その活用を促進します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">～ 推進する事務事業 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飯塚駅周辺整備事業 (都市計画課) ○浦田駅歩道新設事業 (スポーツ振興課) ○公園・広場等の新設、改築、改修事業 (関係課) ●まちなかウォークアブル事業の調査研究 (関係課) </div>		
目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
健幸ポイント事業参加者の 1日あたりの平均歩数	6,553 歩	8,000 歩

【施策】公共施設を活用した健幸づくり事業の推進

【施策概要及び方針】

健幸づくり事業の実施及び啓発拠点として、公共施設の整備及び活用を促進していきます。

基本事業

① 健幸づくり事業拠点公共施設の整備

健幸づくりの拠点を拡充するため、各種施設の整備を進めます。

～ 推進する事務事業 ～

- 公園長寿命化事業 (都市計画課)
- グラウンドゴルフ場の整備 (スポーツ振興課)

② 公共施設を活用した健幸づくり事業の実施

健幸づくり事業については、市主催事業のみならず、指定管理者の自主事業やまち協主催事業においても、公共施設での実施を促進します。

～ 推進する事務事業 ～

- まちづくり協議会活動推進事業 (まちづくり推進課)
- 公共施設運営管理事業 (関係課)
- 公共施設指定管理者管理事業 (関係課)

③ 公共施設を活用した啓発事業の実施

多くの市民が利用する公共施設の啓発媒体（パネル、電子掲示板など）を活用し啓発事業を進めます

～ 推進する事務事業 ～

- 啓発用動画、パネル等の作成 (関係課)

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
公共施設を活用した 健幸イベント数	9回	25回
公共施設利用者数	464,796人	730,000人

※ここでの公共施設は、交流センター、生涯学習施設、文化施設とする。

【施策】デジタルツールを活用した事業の実施

【施策概要及び方針】

健幸づくりを広げるには、「いつでも どこでも 一人でも だれとでも」できる多様性のある事業展開が重要です。そのために、デジタルツールの調査研究、整備、活用を進めていきます。

基本事業

① デジタルネットワークを活用した事業の実施

モバイル通信を活用した会議、講演会や研修を実施し、自宅からでも参加できる環境整備を進めるとともに、遠隔地からの講師招聘を容易にします。

また、庁内デジタルネットワーク（有線ケーブル）を活用し、公共施設をつないで、講演会や研修の実施を推進します。

～ 推進する事務事業 ～

- | | |
|-------------------|---------|
| ○Web会議システム整備事業 | (情報管理課) |
| ○モバイル端末機器庁外利用実証事業 | (情報管理課) |
| ●実施マニュアル整備 | (情報管理課) |
| ●機材等環境整備 | (関係課) |

② データを活用して「健幸の見える化」を推進

保健、医療、介護情報のデータ活用とともに、健幸ポイント事業による活動量計・体組成計の測定値等を活用し、事業の効果的な推進を図り、また、事業の成果を周知・啓発することによる「健幸の見える化」を進め、市民一人ひとりの効果的な健幸づくりの提供に努めます。

～ 推進する事務事業 ～

- | | |
|----------------|---------|
| ○ヘルスケアプロジェクト事業 | (健幸保健課) |
| ○ヘルスアップ事業 | (健幸保健課) |
| ○データヘルス計画事業 | (関係課) |

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
健幸ポイント事業における アプリ利用者の割合	15%	20%

【施策】地域公共交通を活用した歩く社会の推進

【施策概要及び方針】

地域公共交通を買い物、通院、地域活動に利用できるように運行することで、日常生活の維持、社会参加、歩くことが促進され、健幸づくり及びフレイル予防につなげます。

基本事業

① コミュニティ交通の運行

地区内を運行するコミュニティ交通を活用し、日常生活の維持、社会参加、歩くことが促進され、健幸づくり及びフレイル予防につなげます。

～ 推進する事務事業 ～

- 予約乗合タクシー運行事業 (地域公共交通対策課)
- エリアワゴン運行事業 (地域公共交通対策課)
- コミュニティバス運行事業 (地域公共交通対策課)

② 民間路線バス・鉄道の利用促進

中心拠点と地域拠点を結ぶ民間交通を活用することで、大規模なイベントや多種多様な活動への参加が促され、積極性が生み出され、健幸づくり及びフレイル予防につなげます。

～ 推進する事務事業 ～

- 飯塚市内線バス他 4 路線維持事業 (地域公共交通対策課)

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
コミュニティ交通利用者	100,220 人	124,000 人

2)ひとの健幸づくり

【施策】からだの健幸づくりの推進		
【施策概要及び方針】 からだの健幸づくりのためには、継続した運動習慣を身につけることが必要です。市民の誰もが、気軽に運動できる環境やメニューの充実を図っていきます。		
基本事業		
① スポーツ事業の推進 誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ活動に取り組むことができるよう、市民参加型のスポーツイベントの充実を図り、スポーツへの参加機会の拡大に取り組みます。		
～ 推進する事務事業 ～ ○社会体育事業委託 (スポーツ振興課) ○スポーツ協会補助事業 (スポーツ振興課) ○指定管理者管理業務 (関係課)		
② 健幸づくり事業の推進 市民誰もが、それぞれの体力や年齢に応じて、運動ができる環境やメニューを提供していきます。		
～ 推進する事務事業 ～ ○個別運動プログラム教室 (健幸保健課) ○健幸ウォーキング事業 (健幸保健課) ○運動指導事業 (健幸保健課)		
③ フレイル予防事業の推進(筋力低下) 加齢による体重減少、筋力低下を把握し、効果的な運動ができる環境やメニューを提供していきます。		
～ 推進する事務事業 ～ ○介護予防教室 (高齢介護課) ○ボールエクササイズ教室 (高齢介護課) ○高齢者筋力アップ教室 (高齢介護課) ○転倒予防教室 (高齢介護課) ○健幸フレイル予防事業 (健幸保健課)		
目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
スポーツ施設利用者数	427,681人	650,000人
トレーニング施設利用者数	81,303人	170,000人
フレイル関係事業参加者数	10,382人	17,500人

【施策】こころの健幸づくりの推進

【施策概要及び方針】

こころの健幸を保つために、自らのストレスを把握するとともに、趣味、余暇活動、地域活動などを通じた仲間づくり、市民交流を促進します。

基本事業

① 地域コミュニティの推進

より身近な仲間づくり、社会活動に取り組むには、自治会やまちづくり協議会などの地域コミュニティ組織への参加が効果的であり、自治会等の加入メリットを紹介し、加入促進に努めます。

～ 推進する事務事業 ～

- まちづくり協議会活動推進事業 (まちづくり推進課)
- 自治会加入促進事業 (まちづくり推進課)

② 市民活動の推進

市民等の多様なニーズに応えるために、相談、情報提供、活動団体の紹介、支援制度の提案、活動場所の提供等を行い、様々な活動の活性化を図り、市民活動の推進に努めます。

～ 推進する事務事業 ～

- 市民交流プラザ運営事業 (市民活動支援課)
- 協働のまちづくり応援事業 (市民活動支援課)

③ 生涯学習活動の推進

市民の趣味や余暇を活かし、社会参加できるよう、生涯学習活動の環境やメニューを提供します。

～ 推進する事務事業 ～

- 公民館講座・教室事業 (生涯学習課)
- いづか市民マナビネットワーク事業 (生涯学習課)
- 生涯学習ボランティアネットワーク事業 (生涯学習課)
- コスモス大学 (生涯学習課)
- 交流センター運営審議会運営事業費 (まちづくり推進課)
- コミセン・交流センターまつり (関係課)

④ こころの相談事業の周知、啓発

不安感、喪失感を一人で抱え込むことで、社会生活も不活化し、こころの健幸のみならず、体の健幸も損なわれます。専門相談を利用し、必要な支援サービスにつなげることができるよう窓口の周知、啓発を進めていきます。

～ 推進する事務事業 ～

- 生活自立支援相談（生活困窮）（生活支援課）
- ゲートキーパー養成事業（自殺対策）（健幸保健課）
- ◎心の相談（健幸保健課）
- こころのサポーター養成事業（関係課）

⑤ 個別課題への社会的処方調査研究の実施

大学や研究機関と連携し、社会的処方の効果等について調査研究していきます。

～ 推進する事務事業 ～

- 妊産婦運動相談事業費（子育て支援課）

目標推進指標	基準値		目標値	
	2022(令和4)年度		2028(令和10)年度	
公民館講座・教室の受講者数	2,985人		4,000人	
生きがいを持って生活されている方の割合	62.0%		72.3%	

【施策】食の健幸づくりの推進

【施策概要及び方針】

食は健康の基本であり、市民が心身ともに成長し、健康の保持・増進を図るためには、適切な栄養の摂取や望ましい食習慣を身につけることが大切です。

いつまでも自分の歯で楽しめるように口腔ケアの重要性を含めて、その普及啓発活動を行います。

基本事業

① 健康的な食生活の推進

健康的な食生活を送るため三食きちんと食べること、野菜を十分摂取すること、減塩の取り組みなど、栄養バランスのとれた食生活の実践を推進します。

～ 推進する事務事業 ～

- 食育推進事業 (健幸保健課)
- 食生活改善推進会 (健幸保健課)
- SNS等を活用した健康的な食生活に関する啓発活動 (健幸保健課)

② 低栄養の防止

低栄養予防・改善のため講座の開催及び調理ができない方には食事の提供をします。

～ 推進する事務事業 ～

- 高齢者・障がい者配食サービス (高齢介護課) (社会・障がい者福祉課)
- 食育出前講座 (健幸保健課)
- 若年層への普及・啓発活動 (健幸保健課)

③ 歯科口腔ケアの定期的な管理

オーラルフレイル予防・口腔機能向上を目的とした講座を開催します。

～ 推進する事務事業 ～

- 歯周病検診事業 (健幸保健課)

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
食育推進事業参加者数	155人	現状維持
歯科検診受診率	55.2%	75.0%

【施策】健康管理と健幸教育の推進

【施策概要及び方針】

市民一人一人が、健康に関する知識、価値観、スキルなどを学び、身に付け、自分自身や周りの人々の健康をも意識、管理、改善できるように健康管理、健康教育及びヘルスプロモーション（※）を推進します。

基本事業

① 健診、検診の推進

生活習慣病等の早期発見、重症化予防のため各種検診（健診）を実施するとともに、受診率の向上に向けて取り組みます。

～ 推進する事務事業 ～

- 健康診査事業（特定・若年者・生保） （健幸保健課）
- 各種がん検診事業 （健幸保健課）
- ◎福岡県糖尿病性腎症重症化予防プログラム （健幸保健課）

② 健康に関する相談・指導、講座の開催

健康に関する、正しい知識を身につけるため、相談、指導、講座を開催します。

～ 推進する事務事業 ～

- 訪問指導事業 （健幸保健課）
- 健康教育事業 （健幸保健課）
- 健康相談 （健幸保健課）
- 健幸・福祉のつどい （健幸保健課）（社会・障がい者福祉課）

③ 医療機関との連携

医療機関が取り組んでいるヘルスプロモーション情報の収集と提供を進めていきます。

～ 推進する事務事業 ～

- 飯塚市立病院、済生会飯塚嘉穂病院実施の糖尿病教室との連携 （健幸保健課）
- ◎飯塚病院実施の筑豊地域医療サポーター養成講座との連携 （健幸保健課）

目標推進指標	基準値 2022年(令和4)度	目標値 2028(令和10)年度
特定健診受診率	38.9%	60.0%
健幸教室参加者数	6,367人	8,300人

※ヘルスプロモーション

人々が自らの健康をコントロールし改善できるようにするプロセス（WHO 定義）

【施策】参加促進と情報拡散

【施策概要及び方針】

市民が健幸づくりに関心を持ち積極的に参加できるように、情報の発信と市民との協働により健幸のまちづくりを広げていきます。

基本事業

① 啓発と情報の発信

医師会、歯科医師会、薬剤師会等と連携し健康づくりに関する講座やイベント等の情報を集約し、市民への情報提供をおこないます。イベント会場や公共施設等において情報展示コーナー等を設置し啓発を行います。

～ 推進する事務事業 ～

- 健幸・福祉のつどい (健幸保健課) (社会・障がい者福祉課)
- 公共施設のデジタルサイネージ、掲示パネルの活用 (関係課)

② 参加促進

各種健幸づくり事業に個人参加だけでなく、自治会単位等でも参加できるよう、だれもが参加しやすい環境づくりに努めるとともに、参加者に対する効果的なインセンティブのあり方について検討していきます。

～ 推進する事務事業 ～

- ヘルスケアプロジェクト(いづか健幸ポイント)事業 (健幸保健課)
- ◎ふくおか健康ポイント事業の活用 (健幸保健課)

③ 情報拡散

市が行う情報発信や啓発だけではなく、市民との協働により「健幸」の大切さを拡散します。

～ 推進する事務事業 ～

- スポーツ推進委員の活用 (スポーツ振興課)
- フレイル予防サポーターの活用 (健幸保健課)
- インフルエンサーの活用 (健幸保健課)
- 食生活改善推進員の活用 (健幸保健課)

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
健幸ポイント事業参加者数	3,642人	10,500人
フレイル予防サポーター 登録者数	99人	170人
SNSでの健幸事業啓発回数	7回	20回

3) 公民連携の健幸づくり

【施策】ヘルスケア産業との連携推進

【施策概要及び方針】

ヘルスケア産業との連携・育成により、市民の健幸寿命延伸をはかり、医療費・介護費の削減につなげます。

さらに、新たな産業の創出により経済の活性化にもつなげていきます。

基本事業

① 連携

ヘルスケア関連企業（事業所）や健康に関する連携協定先と連携し、講座やイベント開催時に、企業の商品の展示紹介及び参加者に対し健康測定を行うなど、健幸に関する情報提供を行い、健幸のまちづくりを推進します。

また、健康に関する連携協定先と連携し、健康経営の推進に努めます。

～ 推進する事務事業 ～

- 健幸ウォーキング (健幸保健課)
- 健幸・福祉のつどい (健幸保健課) (社会・障がい者福祉課)
- 健康経営に取り組む事業所の支援 (健幸保健課) (経済政策推進室)

② 育成

ヘルスケア産業は成長産業として位置づけられており、本市の医工学連携の実践を基に新たなヘルスケア産業の創出を推進します。

～ 推進する事務事業 ～

- 医工学連携推進事業 (経済政策推進室)
- 地場産業振興事業 (経済政策推進室)
- 新技術・新製品開発補助金交付事業 (経済政策推進室)
- 先端情報技術開発支援事業 (経済政策推進室)

目標推進指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
市イベント出展企業数	25社	30社
連携イベント開催数	4回	8回

※健康経営

従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。

【施策】課題を共有する自治体、企業、団体との連携

【施策概要及び方針】

医療費や介護給付費の増加は、国や地方自治体の財政を逼迫させるだけでなく、医療保険者、生命保険会社等の経営を悪化させる要因になることから、これら団体と連携して健康都市づくりを進めます。

基本事業

① 自治体との連携

自治体との連携により、共同事業の実施や連携した情報発信を行います。

～ 推進する事務事業 ～

- スマートウエルネスシティ首長研究会 (健幸保健課)
- ヘルスケアプロジェクト(いいつか健幸ポイント)事業 (健幸保健課)
- 健幸なまちづくりのための事業連携協定 (健幸保健課)

② 医療保険者との連携

医療保険者との連携により効率的、効果的な保健事業の推進します

～ 推進する事務事業 ～

- 県広域連合が実施する高齢者保健事業・介護予防事業
一体的実施推進事業との連携 (健幸保健課)
- けんぽ協会が実施する特定健診やがん検診との連携 (健幸保健課)
- けんぽ協会が実施する健康経営の推進との連携 (健幸保健課)

目標達成指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
自治体との連携による事業等の実施数	3回	5回
医療保険者との連携による事業等の実施数	—	3回

【施策】企業(事業所)との連携

【施策概要及び方針】

企業（事業所）と連携し、健幸づくり事業の参加者拡大を図ります。

基本事業

① 市内企業との連携

市内企業（事業所）と連携し、企業ぐるみの健康づくりを支援するとともに、併せて従業員等に対し、社会活動への参加を促し、「健幸づくり」の重要性の普及も行います。

～ 推進する事務事業 ～

- 健康経営の推進 （健幸保健課）（経済政策推進室）
- 事業所向け健幸づくり教室の開催 （健幸保健課）
- 自治会や生涯学習活動の紹介普及 （関係課）

② 大規模商店(街)との連携

集客力のある大規模商店（街）と連携し、健幸づくりのイベント開催、啓発、相談事業を実施することで、事業の効果的かつ効率的な実施とまちのにぎわいの創出、地域経済の活性化につなげます。

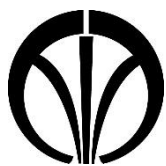
～ 推進する事務事業 ～

- フレイルイベントの実施 （健幸保健課）
- 健康相談 （健幸保健課）
- 商業施設を周回するウォーキングイベント等の開催 （関係課）

目標達成指標	基準値 2022(令和4)年度	目標値 2028(令和10)年度
事業所向け 健幸づくり事業実施数	1回	5回
大規模商店（街）との 健幸づくり事業実施数	2回	5回



～「すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせるまち」をめざして～



編集・発行：飯塚市市民協働部健幸保健課
〒820-8605 福岡県飯塚市忠隈 523
TEL：0948-22-0380（代）
ホームページ URL：<http://www.city.iizuka.lg.jp>